

入場無料 ・ 参加申込不要

裁判員裁判と心理学

心理学的研究は何を語るのか？

2013年3月17日(日) 13:00~17:00

慶應義塾大学 三田キャンパス東館 G-SEC Lab(6F)

<http://www.keio.ac.jp/ja/access/mita.html>

※当日は正門のみ通れます(他の門は通れません)。

わが国で裁判員裁判が始まってから、はや4年が経とうとしている。この間、刑事裁判に関わった一般市民たちは、「被告人の処遇を決める」という非常に悩ましい問題に直面してきた。本シンポジウムでは、今再びこの難題について、元判事の杉田宗久氏をお招きし、心理学的な研究の成果をふまえて議論したい。

特別講演

杉田宗久(同志社大学大学院教授・元判事)

『裁判員裁判における手続二分論的運用について』

研究報告

松尾加代(慶應義塾大学研究員)

『被害者意見陳述の影響と裁判員の情報処理』

伊東裕司(慶應義塾大学教授)

『裁判員の感情が有罪・無罪判断に与える影響』

佐伯昌彦(千葉大学准教授)

『被害者遺族の表出する感情と量刑判断』

綿村英一郎(慶應義塾大学／日本学術振興会特別研究員)

『相場が量刑判断に与える影響』

指定討論:未定

司会:伊東裕司(慶應義塾大学教授)

お問い合わせ先

慶應義塾大学 伊東裕司研究室 E-mail: yitoh@flet.keio.ac.jp

新学術領域『法と人間科学』 <http://law-human.let.hokudai.ac.jp/>

A03 裁判員裁判



法と人間科学
公開シンポジウム

文部科学省科学研究費補助金「新学術領域」